

愛媛県の地震

2020年（令和2年）2月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（2月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（2月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（2月）	2
5. 地震一口メモ 長期評価による地震発生確率の更新について	3

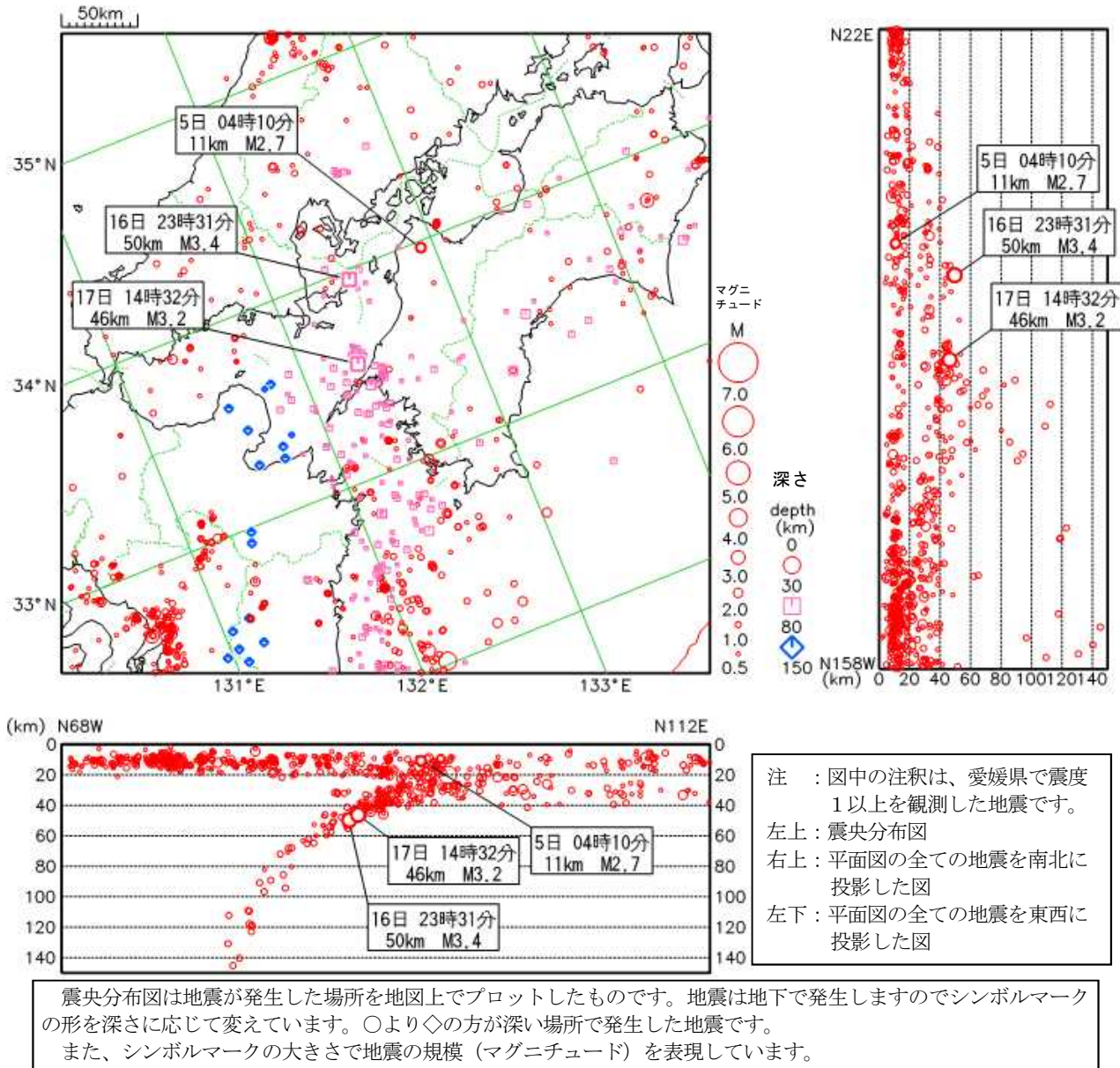
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2020年2月1日～2月29日]



2. 地震概況（2月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は 42 回（先月は 50 回）、愛媛県内で震度 1 以上を観測した地震は 3 回（先月は 0 回）でした。

5日 04時10分 愛媛県東予の地震（深さ 11km、M2.7）により、愛媛県今治市で震度 1 を観測しました。

16日 23時31分 安芸灘の地震（深さ 50km、M3.4）により、愛媛県今治市・松山市、広島県三原市・呉市・東広島市・廿日市市・大崎上島町、山口県岩国市・柳井市・周防大島町で震度 1 を観測しました。

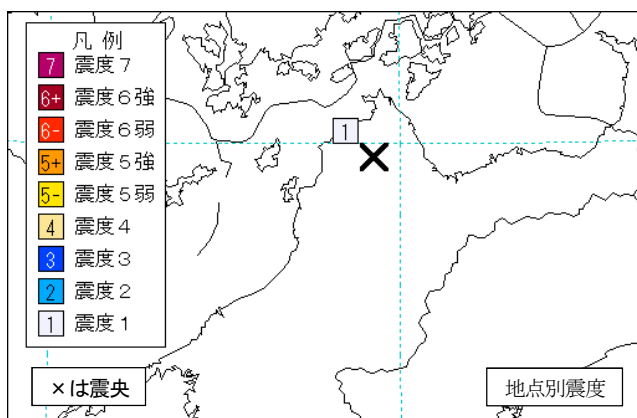
17日 14時32分 伊予灘の地震（深さ 46km、M3.2）により、愛媛県宇和島市・大洲市で震度 1 を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（2月）

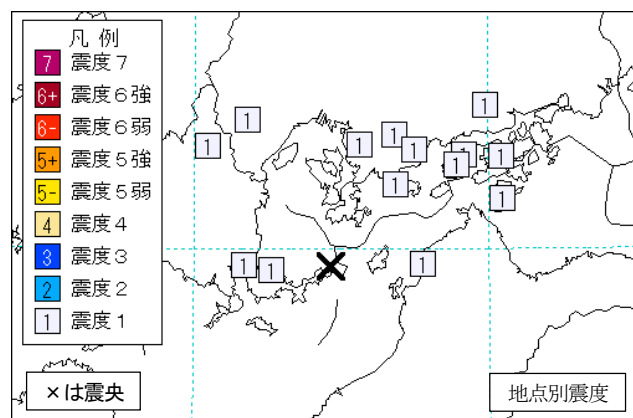
震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2020年02月05日04時10分	愛媛県東予	33° 58.0' N	132° 55.4' E	11km	M2.7	最大震度1
愛媛県 震度 1：今治市菊間町*						
2020年02月16日23時31分	安芸灘	33° 57.2' N	132° 27.8' E	50km	M3.4	最大震度1
愛媛県 震度 1：今治市吉海町*, 今治市上浦町*, 松山市北条辻*						
2020年02月17日14時32分	伊予灘	33° 33.1' N	132° 19.5' E	46km	M3.2	最大震度1
愛媛県 震度 1：宇和島市三間町*, 大洲市長浜*						

注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

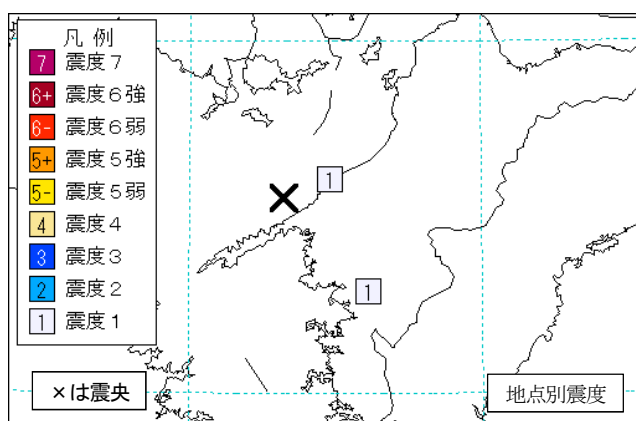
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（2月）



2月05日04時10分 愛媛県東予



2月16日23時31分 安芸灘



2月17日14時32分 伊予灘

5. 地震一口メモ

長期評価による地震発生確率値の更新について

政府の地震調査研究推進本部は主要な活断層や海溝型地震（プレートの沈み込みに伴う地震）の活動間隔、次の地震の発生可能性〔場所、規模（マグニチュード）及び発生確率〕等々を評価し、随時公表しています。これまでは、平成31年（2019年）1月1日を基準日として算定された地震の発生確率値が公表されてきました。

今回、これまでの算定基準日から1年が経過したことから、算定基準日を令和2年（2020年）1月1日として再計算が行われ、1月24日に公表されました。

しかし、1年という経過時間に対して、主要活断層の平均活動間隔は数千年程度と長いため、確率値の変化が小さく、計算結果の丸め（四捨五入）によって、これまでの表記と変わらない場合が多くなっています。

以下に、中央構造線断層帯の愛媛県内の区間ごとの長期評価を示します。

中央構造線断層帯（愛媛県内区間）の長期評価の概要（算定基準日 令和2年（2020年）1月1日）

区間	長期評価 で予想した地震規模 (マグニチュード)	我が国の 主な活断層における相対的 評価(注3) (ランク)	地震発生確率(注1)			地震後経過率(注2)	平均活動間隔
			30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
讃岐山脈南縁西部	8.0程度 もしくはそれ以上	A	ほぼ0%～ 0.4%	ほぼ0%～ 0.8%	ほぼ0%～ 2%	0.2-0.5	約1000年-1500年 ----- 16世紀以降-17世紀以前
石鎚山脈北縁	7.3程度	Z	0.01%以下	0.03%以下	0.1%以下	0.4以下	約1500年-1800年 ----- 15世紀以降
石鎚山脈北縁西部	7.5程度	S*	ほぼ0%～ 12%	ほぼ0%～ 20%	ほぼ0%～ 40%	0.2-0.9	約700年-1300年 ----- 15世紀以降-18世紀以前
伊予灘	8.0程度 もしくはそれ以上	Z	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.04-0.1	約2900年-3300年 ----- 17世紀以降-19世紀以前

注1：確率値は有効数字1桁で記述している。ただし、30年確率が10%台の場合は2桁で記述する。また、「ほぼ0%」とあるのは、 $10^{-3}\%$ 未満の確率値を表す。

注2：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

注3：活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記している。地震後経過率（注2）が0.7以上である活断層については、ランクに*を付記している。

参考：地震調査研究推進本部（令和2年1月24日公表）

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_20jan_kakuritsu_index/